

リストの《ペトラルカによる 3つのソネット》についての一考察

A study of F. Liszt's "Tre sonetti del Petrarca"

音楽文化研究科 音楽表現専攻 07-1034 張 秋炎

フランツ・リスト (Franz Liszt, 1811-1886) の作品は、情熱的で華麗なものが多いが、1837~1849 年の間に書いた《巡礼の年、第 2 年、イタリア》(*Années de Pèlerinage, deuxième années, Italie S.161*) は、古い時代に対する憧憬に満ちており、彼に影響を与えたイタリア文学や芸術の傑作を表象している。その中でも、文学と最も直接的な関連性を備え、技巧の誇示よりもむしろ深い音楽表現を目指したものが〈ペトラルカのソネット第 47・104・123 番〉(Sonetti 47・104・123 del Petrarca) である。

リストは〈ペトラルカのソネット〉の為に 4 種類の版を書いた。本論文ではそのうち、1838~1839 年に作られた歌曲 (テノール) 版を参照しながら、1858 年に出版されたピアノ版《巡礼の年》の〈ソネット〉3 曲を分析、解釈したものである。ここでは、文学と音楽との関連に注目し、曲全体の構成を歌詞の面から考察した。更に、音画手法や調性関係、和声などについても分析を加え、ピアノ版〈ペトラルカのソネット〉3 曲の中にリストがいかに詩の意味する深い雰囲気表現しようとしたか検討した。

本論文は 6 章に分かれる。第 1 章で研究の目的と考察方法の説明をした後、第 2 章ではリストのピアノ作品中、文学と関連性のある作品の例を提示し、研究対象曲の創作背景と経過、成立事情を探究し、元の詩の特徴を紹介した。第 3・4・5 章では 3 曲について、それぞれテノール版を参照しながら、ピアノ版の規模、調性、旋律、音階、和声、音型、動機、歌詞などを細かく考察して、最後に章ごとのまとめを付した。第 6 章では各考察の結果から結論を導いた。

3 曲の共通点は以下の通りである。

- ①リストはテノール版で、既に歌詞の境地を十分に表現しているが、ピアノ版では、ピアノの音色や豊富な音響効果を利用して、歌詞の意味をいっそうきめ細かに表現し、その雰囲気を作り出している。
- ②楽曲の構築という面では、3 曲とも序奏と後奏が付けられている。また、“主題の変形”の使用、調性の配置によって、3 曲の統一性を確保した。
- ③3 曲とも詩と音楽との密接な連携の下に、異名同音の転調を利用して、絶妙な表現に達することに成功した。

本論文における分析と研究を通して得た深い解釈の下に、確実な信念を持って演奏に臨みたい。